

手先の訓練について

名古屋市みちる幼稚園

峰

親

吉

日本人は古来より手先が器用だと云はれている。私達は欧米人より手先の優れている事実を、しばしば、聞かされているが、此の事は生まれながらに、日本人のみの持つ特質とは考えられない。

やはり他の才能と同様に訓練に依つて育てられてゆくものと思うのである。

此の手先の器用と云う事の得失に就いては、簡単に考えることは危険であるが、産業其他の実利方面に於ての手先の器用さは、必要な面も可なり多いことと思うのである。

特に日本の産業の多くが、女子の手先の器用さの故に大いに役立つてゐる面も事実多いのである。

ところが、此の日本の特技と云はれる手先の器用さも、近來特に都会の子女に於ては、後退する様な傾向が見えるのであるが、其の原因に就いては、詳細な調査に待たなければならぬと思うが、一つの原因と考えられることは、昔は都会の子女も、おはじき、御手

玉等の如き手先の訓練を助長する様な遊びを連続的にやつていたのが、現在では他の遊びに變つた為、訓練せられる機会がなくなつた事もあげられている。

此の様なことから、幼児に手先の訓練を実施して、其の才能を育て、引いては、幼児のしつけの面に其れを利用したいとの目的から次の様な具体案を一二創案してみたのである。

然しまだ、実施を初めたばかりで、確実な結果も分つていないのであつて、まだまだ、改める事も多く、又加える事も多いと思うのであるが、兎に角、其のアイデアの概要を説明してみることとする。

(A) 低学年の幼児の為のもの

21×21の布地に10×10のボタンホールを25個程作り、五色のボタンを別の布地の小片に附けたものを作り、此れを前者に嵌めることに依つて図案を作ること。

緩めること、取ることの練習。

速度を計つて、操作すること、等を訓練し、充分に其の技に熟達した後、幼児自身で自分の衣服のボタン掛けを行うことの出来る為のしつけに役立てると云う、意図を持つものである。

(B) 高学年の幼児の為のもの

15cm×9cmのベニヤ板に四ヶ所の穴を造り、長さ60cmの紐を三本用意し、最初の一本を二つの穴に通し、丸結びの練習次に二本を通し同様の練習。三本を通し、同様の練習。次に一本を二つの穴に通し、蝶結びの練習。次に二本を通し、同様の練習。三本を通し同様の練習。

此の様にして充分練習の出来て後、幼児が自分で靴の紐を結ぶことが出来、自立のしつけに役立たし度いとの意図を持つものである。

かくの如く、しつけの方面から考える時は、自分のことは自分ですると云う事項に就いても、例えば、幼児の衣服を母親の手を借りず、自身でやるにしても、先ず其の衣服が、幼児自身の手で簡単に操作出来るデザインのものでなければならぬし、其のボタン又は他の接合装置が自身で実行出来る様な、基礎訓練が必要であるのであるから、此の試みも、其の点から見ても必ずしも無駄な訓練とは申されなぬと思ふのである。

北陸の一地区で幼児教育は

どのように理解されているか

(特に小学校教師を対象にしての調査報告)

高田幼年教育研究会

根 岸 草 笛

調査年月日

昭和廿七年四月十五日〜二十五日